未来構想PF
プラットフォーム通信
第1号
平成25年12月15日発行
（社）未来のまち・交通・鉄道を構想するプラットフォーム

プラットフォーム通信第一号によせて　　山本卓朗

一般社団法人「未来のまち・交通・鉄道を構想するプラットフォーム」は、2010年秋に設立されましたが、この度遅ればせながらプラットフォーム通信を発行する運びになりました。この3年間の活動として、JR東日本グループの若手社員を対象としたワークショップ研修を中心に、連携する一般社団法人「計画・交通研究会」との交流などに取り組んできました。活動そのものは未だ試行的かつ初歩的ですが、自然体であせらず未来構想・ビジョンつくりを視野に、前向きに取り組んでいきたいと考えています。

さて2020年の東京オリンピック開催が決定しました。私を含め招致は難しいのでは、と感じていた方は大変多かったと思います。しかし実現したことで日本全体が久々に明るいムードに包まれたことはまことに悦ばしいことだと思います。もちろん批判的な方々が多いことも承知しています。私の周辺では、無駄な公共事業がまたまた多くなって財政再建にマイナスである、東日本大震災の復興への関心が薄れ、事業の推進を停滞させるのでは、という意見が聞かれます。しかし、国際競争力の回復と経済の活性化を図り失われた20年を取り戻す最大のチャンスが到来したと前向きに考えたいと思います。そしてマイナス面を危惧する方々の思いが杞憂で終わるよう合わせて努力することを忘れてはならないと思います。

1964年東京オリンピックとともに東海道新幹線と名神高速道路が開通し、高速交通体系の幕明けを迎えました。特に新幹線は世界の“鉄道ルネッサンス”と呼ばれ、斜陽化する鉄道の奇跡的な復権に繋がりました。オリンピックという超ど級のイベントが、これをうまく活用すれば、国家経済や国際交流そして都市整備に大きな効果をもたらすであろうことは容易に想像できます。

当時と比べ現代の日本はインフラ整備が格段に進んでおり、同じようなビッグプロジェクトが出現するとは思いません。しかし高度成長時代のインフラ整備は、お江戸日本橋の直上に高速道路を通したように性急な事業が多く、都市に多大なひずみを残しました。また上空には電線通信線がくもの巣のように張りめぐらされており、醜悪な景観となっています。しかしオリンピック、富士山の世界遺産登録などで海外から我が国を訪れる観光客が格段に増加するものと思われます。このような時代に合わせ貧しい都市環境を修復するプロジェクトは大変重要であり、その議論を盛り上げ、世界に誇れる美しい都市をめざしたいと思います。

オリンピックまで6年という短い期間に整備することは出来なくても、この機会を

最大限に活用して、20 年 30 年先の日本を見据えた将来ビジョンを構想し実現していく努力が大切であると考えます。

（未来構想 PF　会長）

WS（ワークショップ）研修

■ＷＳ研修を継続実施中

プロジェクトの構想から実現までのフローを理解し、自ら考えることを目的とした研修を定期的に実施している。

◇ターミナル駅やネットワークの将来ビジョンをテーマとする総合部門と、調査計画段階での施工計画をテーマとする施工計画部門の 2 部門がある。
◇参加者は司会進行役のファシリテーターを含め 10 名程度、1 回 2 時間で通常 6～8 回（3 か月）で完結する構成とし、毎回事前に提示された課題を A4 一枚にまとめ発表議論する方法で進めるが、必ずアドバイザーが出席して適切な指導を行う。

□参加者からのコメント

私は、2012 年 11 月から 2013 年 8 月まで、「首都圏鉄道将来ビジョン」をテーマに全 10 回のワークショップに参加いたしました。最初は人口動向やパーソントリップ、高齢者・女性・外国人の変化等の各種データ分析から、30 年後の社会・まち・交通の状況やその中での鉄道の「夢」の形を参加者各自がイメージするところから始まり、五方面作戦やつくばエクスプレスのトレース、プロジェクト評価事例についての文献調査等に取り組みました。

当初は、普段の社内業務と同様、どうしても投資効果や実現可能性等を基準に考えるため、大きな将来ビジョンを描くことを忘れがちになりましたが、毎回、参加者全員が A4 一枚に考えをまとめた上で会社や系統の枠を超えて議論を重ねることで、首都圏鉄道将来ビジョンを考える際のフローやポイントを学ぶことができました。

今回のワークショップは、「自ら考え抜き、仲間と議論し、新たなものを生み出すプロセスを学ぶ場」として、大変勉強になりました。今後も自らのプロジェクト企画力強化に向け、研鑽を積みたいと思います。

（JR 東日本　上村龍作）

ＶＯＩＣＥ（会員の声）

プロ野球東北楽天球団の田中マー君の大記録達成と何故か関連をするのだそうだが、最近「どの職業にも『専門職業人』として吹っ切れるための関門がある」とよく耳にすることがある。

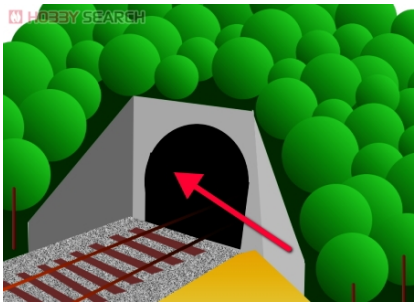
プロとして自覚をする「ブレークスルーの過程」を言うのであろう。

ただ、どの世界にも一流と二流或いは一軍と二軍が有るのだから一軍になってから関門を通過したのか、二軍時代に目覚めるのかは各人各様であろう。

私の場合、一般的なカテゴリー分類から言えば「鉄道の建設屋」であり「トンネル屋」でもあるが、プロ生活を始めて既に 42 年余を数え、大したことではないが「なるほどあれがプロになったことを意識した最初だったな」と思うことがある。

最初の赴任地は札幌だったが何をして過ごせば良いのかも分からない日々を過ごし、ほどなく占冠村の狩勝線（石勝線の東半分）の現場に出して貰った。

占冠村は今でこそ石勝線が通り、道東自動車道が開通する交通の要衝の地にあるが当時は道産子でさえ二の足を踏むような僻地で、571 平方㎞と香川県の約 1/3 にあたる広大な面積に人口は当時 1400 人程度というような所でヒグマも平気で出没もし、真冬の何日かは零下 33℃～34℃を記録するという本当に驚くような場所で、「今から果して土木屋として育って行けるのだろうか」と不安だった。



担当現場はトンネルを出たら川、川を渡れば又トンネルという地形で、橋脚の支持地盤が設計よりもかなり高かったり、或いは低かったりということが多く、フーチングの下面位置を変更した上、配筋を現場で手持ちの鉄筋種別に出来るだけ合せて修正設計を行ったり、トンネル坑口部付近での覆工コンクリートの配筋設計等を任されることが多かったが、学生時代の延長線上にいるような感がして、何となく達成感を感じることが出来ないでいた。

トンネルは紅葉山線（石勝線の西側半分）のような長大トンネルも無く、また膨圧性の地山でも無かった。

むしろトンネルの覆工コンクリートの巻厚が 30cm と薄く、これを確保する方が問題だった。

鋼製セントルに設けられた検測窓から見るだけではとても確認が出来ず、どうしたものかと思っていると当時は 52kg と見事に痩せていた私に「検測窓から地山側に入って検測をして来い」と言われた。

さすがに 30cm 幅というのは、ただ単に作業着がケレン油にまみれるだけという生易しい状況ではなく、油まみれのセントルに顔まで擦り付けるような状況での検測だったが、2 日～3 日毎の作業を一時は専門として続けた。

風呂に入ってもなかなか匂いまで消えないような強烈な機械系油の匂いだった。

トンネルとしての内空が十分有るはずなのに、セントルのセットを少しでも狂わせるとすぐに巻厚が確保出来ない部分が出ることも体で覚えることが出来たし、矢板の矢尻の切り仕舞によっては到底所定の巻厚は確保出来ないと言うことも身をもって分かった。

トンネルの仕上げを左右する一連の仕組みに組み込まれたような気がし、「自分はトンネルを造っているのだ」という、今にして思えば何とも微笑ましい満足感と充足感が湧いてきたことを思い出す。

当時はもちろん二軍の所属だったが、「二軍でもプロでなければ・・・・・」と思うようになったのはこの時であったように思う。

私の時代とは異なり、現在では一般社会での新人の二軍生活はずっと長期間になっているように感じるが、いずれの社会でも「プロを意識しない人間は何時までたっても一軍にはなれない」という思いを一層強く感じている。

若い人達には、先人の教えを決して盲目的に受け入れることなく二軍時代からキラリと光るものを身に付けて、思う存分プロとして活躍をしてほしいものだと思う。

（平成 25 年 10 月 8 日　東亜建設工業㈱　奥田庸）

NEWS

■上野駅周辺整備構想ＷＳを実施中

◇上野駅周辺は、東北の玄関・芸術の集積等歴史的にも拠点性を有している。近年、他の副都心に比べ相対的にそのポテンシャルを生かし切れていないとの指摘もあり、また東北縦貫線開業に伴い東京方面への通過駅になるとの懸念もある。そこで上野駅周辺を含め整備構想を提案する。

◇産官学で構成するメンバー13 名で年度末までに成果をまとめる。アドバイザーとして関係者の他有識者も参加し多様な意見交換が可能となっている。

■国際比較データＷＳを実施中

◇未来プロジェクトを構想する背景として様々なデータを活用する。その際、国際比較があればさらに客観的判断が可能となる。そこで広く国際比較データを収集し共有データ化することを目的とする。

◇現在推進グループで、収集方法や共有データの情報提供方法等を検討しており、次年度からの本格運用を目指している。

事務局通信

■会員状況（平成 25 年 12 月現在）
◇法人会員 5 社、(JR 東日本、鉄建建設、JR 東日本コンサルタンツ、JR 東日本建築設計事務所、計画・交通研究会)
◇賛助会員 118 名、

■フェイスブックを開設しています。　//www.facebook.com/miraikoso.platform

～ ● 今月の写真コーナー ● ～

世界遺産にも登録された富士山の山頂から撮影した日の出です。日本で一番高い箇所からの御来光は圧巻です。（ＪＲ東日本　岩井有人）

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。
連絡先：未来構想 PF 事務局 土井　携帯:090-9150-8613 メール：info@miraikoso.or.jp
〒100-6005　東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28